

そのすぐ後面にあたる福岡、啓風丸の地点で寒気渦 ($\sigma < 332 \text{ Jgm}^{-1}$) が存在し、対流圏中層で対流不安定が強まった。このことは前項の (イ) と関連し、500mb の気圧の谷に沿って部分的に、特に九州西岸付近で運動量の下層から上層への鉛直輸送を増大させる結果にもなったと考えられる。

(エ) 6日09時305°K の等温位面解析によれば九州西岸で南風が卓越し、500mb 面の気圧の谷と交わるところが天草上島付近と推定される。

以上これらのことから天草上島の集中豪雨は総観規模のじょう乱にメソ高気圧発生に伴う慣性不安定波のようなメソ規模のじょう乱が重なって発生した対流不安定現象であると考えられる。

9. むすび

上層の寒冷渦に伴う集中豪雨については、よく知られているが、今回の調査では上層におけるメソ高気圧の発生が一つの主要な原因であることが実証されたものと思われる。著者は日頃、総観解析の重要性を強調するものであるが、それを再確認するとともに等温位面解析の有利性を改めて知ることができた。すなわち福岡、済州島

の上層における風、気温、湿度の特徴ある変化は予報上重視すべき性質のものであり、また上層の気圧の谷の通過とその性質、メソ高気圧とメソ低気圧の発生がそれである。またレーダーエコーとの関係は検討していないが、できれば今後調査してみたいと思っている。最後に熊本地方気象台の技術課の各位には資料の作成に尽力していただき、また気象庁天気相談所長宮沢清治氏に御教示をいただき、この紙面をかりて心から感謝の意を申し上げます。

文 献

- Kreitzberg, Carl, W. and H. Albert Brown, 1970: Mesoscale Weather Systems within an Occulsion, *Jour. Appl. Met.*, **9**, 419, 422-423.
 窪田正八, 1971: 中間規模じょう乱をめぐって, 電計室報告別冊, **15**, 183-185.
 宮沢清治, 1970: 降水量の定量的な取り扱い, 福岡管区気象台技術通信, **16**, 444-445.
 沢田竜吉, 1955: 天気図解析の基礎, 予報研究ノート, **6**, 83-84.

第16回 IUGG 総会について

期 日: 1975年8月25日～9月6日

場 所: Grenoble (フランス)

プログラム (気象関係) の概要

- (a) Meteorological and Hydrological Aspects of Continental Drughts
- (b) Isotopes and Impurities in Snow and Ice
- (c) GARP First Objective: Weather Predictability
- (d) GARP Second Objective: Climatic Change.
- (e) Marine Pollution
- (f) Atmospheric Pollution

(g) Stratosphere/Mesosphere Relations

(h) Optical Sensing and Probing of the Atmosphere

(i) Artificial Weather Modification

登 録

登録料は \$ 30～\$ 40位の子定、登録申込用紙が必要な方は、岸保勘三郎 (東京都文京区弥生町 2-11-16 東大理学部地球物理学教室) まで申出て下さい。なお、地球物理学研連、気象分科会では航空運賃割安の団体旅行を計画しています。なお詳細なことがわかり次第、逐次天氣に掲載していく予定です。